

ニクス工作で使われるスイッチには、そのほかに押しボタン・スイッチ(プッシュ・スイッチ)とかキー・スイッチなどがあります。

スケルチ

FMでは、受信信号が無いときにはザーっという雑音が出ます。この雑音をカットするのが無線機についているスケルチ(SQL)ツマミです。なお、本来はこのようにFM受信機のための機能なのですが、オールモードのトランシーバーのようにFMとSSBやAMが一緒になっている場合には、本来は必要のないSSBやAMでもスケルチ・ツマミが機能しているのが普通なので注意が必要です。

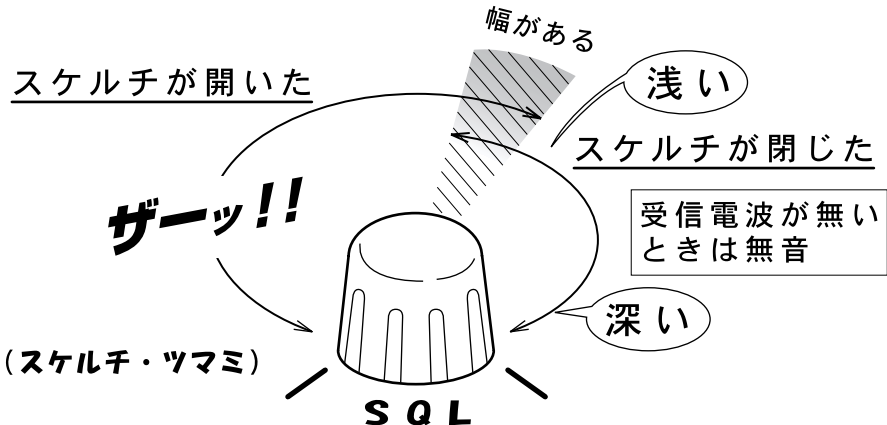
*

では、無線機のモードをFMにして電波のないところにダイヤルを合わせ、スケルチ・ツマミを回してみましょ。

まず、ツマミを反時計方向に一杯に回すとスピーカーからザーっという雑音が聞こえますが、これがスケルチが開いた状態です。スケルチが開いた状態では雑音がうるさいですが、電波が到来すると必ず受信できます。でも、これではスケルチの機能は利用されていません。

そこでスケルチ・ツマミを時計方向に回していくと、どこかで雑音が消えるでしょう。これが、スケルチが閉じた状態です。この状態で電波が到来すると、その電波がスケルチを開くだけの強さがあれば受信できます。これが、スケルチの機能を使ったFMの受信方法です。

*



これで、スケルチの機能を使うにはスケルチが閉じた状態で待機することがわかりましたが、実際にはスケルチ・ツマミはどこに調整しておけばいいのでしょうか。そこで登場するのがスケルチの深さです。

スケルチ・ツマミを時計方向に回していったスケルチが閉じたあたりではスケルチは浅い状態で、弱い電波でもスケルチを開くことができます。したがって、QSOする相手の電波が弱い場合には、スケルチを浅くして受信します。でも、この状態で待機するとちょっと弱い電波でもスケルチが開いてしまい、場合によってはうるさいかもしれません。

そこでスケルチ・ツマミを反時計方向に回していくと、スケルチは次第に深くなり、それにつれて強い電波でないとスケルチが開かなくなります。近所の強い局とQSOするときにはスケルチは深くてもいいのですが、その状態だと弱い電波ではスケルチが開かないので注意が必要です。

*

これでわかるように、スケルチというのはなかなか奥が深いものです。スケルチ・ツマミは普通はスケルチが閉じたあたりにしておけばいいのですが、電波の受信状態によっては回してみる価値があります。

スタンド・マイク

デスクトップ・タイプの無線機には、オプションでハンド・マイクとスタンド・マイクの両方が用意されているのが普通です。

オペデスクの上で使うスタンド・マイクには通常ロック・タイプとPTTタイプの二種類のスタンバイ・スイッチがついています。のんびりとラグチューを楽しむときにはロック・タイプ、コンテストのようにスピーディな運用が必要な場合には押してしゃべるPTTタイプというように使い分けます。

ステー(アンテナの...)

どこでも目にする光景ですが、屋根の上に設置されたテレビ・アンテナのポールを支えるために張られた針金、あれがステー(支線)です。

アンテナを乗せるためのアンテナ・タワーやアンテナ・ポールにはステーを必要としない自立タイプのものもありますが、特にアマチュアがベランダなどにポールを立てるような場合にはステーをしっかりと取るのが安全です。そのためのステー・ワイヤーやワイヤー・クリップ、シンプル、ターンバックルといった便利な部品も市販されています。

ストア・アンド・ホワード方式

日本で打上げられたアマチュア衛星「ふじ」には、デジタル・モードとしてパケット通信機能が搭載されています。

このパケット通信では、衛星が日本の上空に来たときにCQ呼び出しを衛星内に蓄積しておき、例えばアメリカの上空に行ったときにこれを読み出すことによって日本の局のCQがアメリカの局に伝えられる...というようになります。これが、ストア・アンド・ホワード(蓄積・伝送)方式です。

今日出しておいたCQ呼び出しに対して、明日になって地球の裏側の局から応答がある、こんな世界があるわけですね。

センター局 キー局を参照

選抜試験

JARDが行う、3アマの資格を取得するための第三級短縮コースを受講する資格を得るための予備試験です。4アマの資格を持っていることが、受験の条件です。


総合通信局

総合通信局は、正確には関東総合通信局とか近畿総合通信局のように頭に地方を表す文字が付きまゝ。そこで、全体を表すときに地方総合通信局ということもあります。

例えば、関東総合通信局のWebページの組織図

<http://www.k-denkan.go.jp/infom.html>

にアクセスしてみると、アマチュア無線は無線通信部の私設第二課であることがわかります。

 総合通信局の管轄区域と所在地 (p.124)

送信機

無線通信を行う場合には電波を出すための送信機と電波を受けるための受信機が必要ですが、今では送信機と受信機を一緒にし、これらを連携して動作するようにしたトランシーバーが使われています。現在では、単に無線機という場合にはトランシーバーだと思って間違いありません。

そういうわけで、実際の無線機では第3冊の第5話で取り上げたQP-21のように送信機が独立していることは少ないのですが、無線局の申請や変更のとき